

3年 算数科 研究授業のまとめ（5月25日）

1 単元名及び単元の目標

新しい計算を考えよう（3 / 10本時）

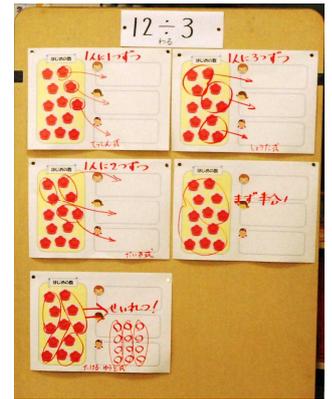
- ◎ 除法の意味について理解し、それをを用いることができるようにする。

2 本研究授業の提案について

わり算という新しい計算の答えを、自分なりに考えて見つけることができるようにするために、次のような提案を行った。

既習内容を振り返り、それを生かして考えることができるようにするために、前時に使ったワークシートを掲示した。（資料1参照）。本時の課題に取組む前にもこの掲示を使って振り返り、考える手立てとした。この掲示を参考にしながらノートに考えを書いたり、発表した際、どの考えと同じか確認したりできたので、有効であった。ただ、今回の課題は「 $20 \div 5$ 」だったので、前時で活用できた「半分にする」などの方法では難しくなってしまうものもあった。活用できるものとそうでないものを全員で考え、それから取り組ませてもよかった。

自分の考えを見直したり深めたりするために、友達の考えを聞いて再考する場面を作った。様々な考えが出されたことで、なるほどと納得したり、考えを書き直したりする児童も見られた。ただ、自分が考えた内容がよかったのかどうか十分に確認することにはつながっていなかった。これは再考ということにはなっておらず、より良い考えを吟味するためには、学習の流れや時間のかけ方を見直すなど工夫をする必要があった。また、考えを式や言葉で表すだけでなく、前時と同じように図やおはじきなどで視覚化した方がより分かりやすく、共通理解を図りやすかった。



【資料1 前時までの学習】

3 本研究授業の授業技術課題について

一人一人の実態を把握し、それを生かして個に応じた支援ができるようにしようと考えた。具体的には、本単元に入る前にレディネステストを行い、わり算の基礎となるかけ算九九の定着具合や、分けることに関する経験や認識などについて調べた。九九については、間違いのあった児童が22人中3人いたものの、その他は満点だったので、九九に関する支援はあまり必要ないと考えられた。一方分けることに関しては、「半分に分けること」と捉えていた児童が8人、「等しく分けること」と捉えていた児童が7人、どのように分けるか説明が不明な児童が8人だった。この結果を踏まえ、分けることについての認識が不十分だった児童を中心に机間指導を行い、声掛けをした。事前に児童一人一人の学習課題に対する傾向を把握しておくことは、短時間で効率よく指導を行う上でとても有効であると改めて感じた。

4 次回の研究授業へ向けて

以上のことから、次の点の改善を図りながら授業の展開を考えていきたい。

- ・本時のねらいを達成するために必要な学習形態を吟味し、内容に応じてペアやグループでの話し合い活動、個人での再考ができるようにする。
- ・既習事項のうちどれを活用すればよいかみんなで考えるなど、本時の学習内容に合わせた提示の仕方を工夫する。